

大阪・関西万博 EXPO アリーナに海洋プラスチックを収集・アップサイクルした外装材を用いた物販棟を提供 ～大成建設社員が「拾う」ことから始め、資源循環・環境問題への意識向上を図る～

2024 年 8 月 9 日
大成建設株式会社

大成建設株式会社（社長：相川善郎）は、2025 年日本国際博覧会（大阪・関西万博）※¹に協賛し、EXPO アリーナにて海洋プラスチック※²をアップサイクル※³した外装材で作る物販棟を提供します。

今回、海洋プラスチックをリサイクルし、美しい表情をもつ建築物に姿を変えて活用することで、新たな価値を生み出し、万博来場者にサーキュラーエコノミー※⁴の概念を広めていきます。



物販棟完成予想図

■大阪・関西万博のテーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」に沿った物販棟

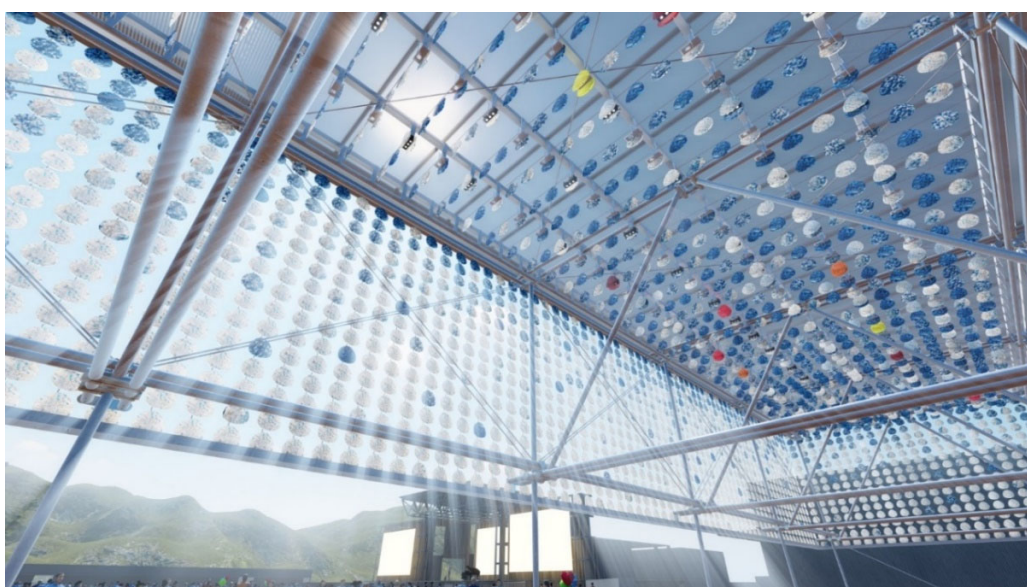
提供する物販棟は、「いのち輝く未来社会のデザイン」という大阪・関西万博のテーマに沿って、脱炭素・資源循環・自然環境に配慮した「EXPO2025 グリーンビジョン」を達成するために、海洋プラスチックを外装材に使用した建築物となります。

長崎県対馬市の海岸から当社社員が拾い集めた海洋プラスチック※⁵は、材料特性や仕様を確認したうえでプラスチック板に成形されており、物販棟の日よけにもなります。

また、物販棟の床には、葦原で不要となった葦をアップサイクルした「葦チップファイバー」も使用します。



物販棟内部イメージ①



物販棟内部イメージ②

■海洋プラスチックを「拾う」ことから始める資源循環

海洋プラスチックによる汚染は、地球上の生態系に甚大な影響を及ぼしており、世界共通課題として認識されています。日本では、『G20 大阪サミット 2019』にて長崎県対馬市の海岸に漂着する大量の海洋プラスチックによる汚染問題について、全世界に発信されたことで国際的にその実情が認知されるようになりました。

当社では、社員の資源循環や環境問題への意識向上を図るため、社員自らが「拾う」ことから始めることとし、2023年12月に対馬市の海岸において海洋プラスチックの回収作業を実施しました。

今回の物販棟では、対馬で収集した海洋プラスチックに加え、今後、日本各地の海岸に漂着する海洋プラスチックを収集し、アップサイクルして外装材として活用する予定です。

お問い合わせ先：大成建設株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 広報室

TEL.03-5381-5011（ダイヤルイン）



大成建設社員による海洋プラスチックの回収状況

今後当社は、大阪・関西万博から世界各地にサーキュラーエコノミーへの取り組みを訴求し、また、資源循環・環境保全活動に積極的に取り組むことで、循環型社会・自然共生社会の実現に貢献してまいります。

※1 2025 年 4 月 13 日(日)から 10 月 13 日(月)まで大阪府大阪市夢洲で開催される万国博覧会

※2 海に大量に流入するプラスチックが、経済の成長や便利なライフスタイルへの移行と共に増加しており、世界的な規模で様々な問題を引き起こしている(海の生態系、観光業・漁業・養殖業)。多くのプラスチック製品を生産・消費している日本も決して無関係ではなく、国際的にも大きな責任を持つ国の一つとして、この「海洋プラスチック問題」の解決に向けて早急な対応が必要

※3 捨てられるはずの製品に新たな価値を与えて再生することで、持続可能な社会に貢献する手法

※4 資源を循環させて廃棄物や汚染を減らし、経済的な成長を目指す新しい経済システム(循環型経済)

※5 長崎県対馬市は、日本や近隣諸国で発生したごみが大量に漂着しており、2022 年度の年間漂着量は 70,640m³。

(一般社団法人対馬 CAPP 令和 4 年度対馬市海岸漂着物モニタリング調査の結果報告より)

生態系を含む環境の悪化が懸念されており、これまで対馬市においては環境省予算による複数の漂着ごみ関連の調査や回収事業のほか、地域の民間団体等による海岸清掃活動が実施されている。(対馬海ごみ情報センターHP より引用)

[対馬海ごみ情報センター \(tsushima-mltic.com\)](https://tsushima-mltic.com)